

宮城県亶理町と災害科学国際研究所との連携と協力に関する協定締結式および防災講演会を開催しました (2013/6/25)

テーマ：包括的連携と相互の協力

会場：宮城県亶理町悠里館

6月25日(火)、宮城県亶理町悠里館において、宮城県亶理町と東北大学災害科学国際研究所との連携と協力に関する協定締結式が開催されました。亶理町では、災害公営住宅の整備をはじめ、堤防や避難道路の整備など、復旧・復興を最優先課題として全力で取り組んでいます。一方、災害科学国際研究所は、文系と理系の垣根を越え、減災に係る様々な研究と実践的な取組を推し進めています。また、亶理町防災会議 地震・津波対策専門部会をはじめ、様々な場面で亶理町の防災・減災や復興に関する取組を支援しています。今後お互いに連携して、これらを活発化させる礎とするよう、協定を締結することとなりました。本協定は、亶理町と災害科学国際研究所が、包括的な連携のもとに相互に協力し、それぞれが有する資源の積極的な活用を図りながら、地域社会の復興と発展、社会ニーズに対応した研究の深化、さらには未来を担う人材の育成に寄与することを目的としています。締結式には、齋藤邦男 亶理町長、平川新 災害科学国際研究所長の他、立会人として亶理町議会から安細隆之議長、佐藤實 副議長、亶理町自主防災会連絡協議会の伊藤建夫会長はじめ各行政区長と自主防災会メンバー、災害科学国際研究所からは阿部昭 事務長、奥村誠 教授、岩崎俊樹 教授、大野晋 准教授、今井健太郎 助教、佐藤翔輔 助教、池田菜穂 助教が出席しました。協定についての説明が行われた後、「国立大学法人東北大学災害科学国際研究所と宮城県亶理町との連携と協力に関する協定書」に平川所長と齋藤町長が署名し協定が締結されました。

締結式の後、災害科学国際研究所 災害理学研究部門 気象・海洋研究分野の岩崎俊樹教授が、「天気予報—その仕組みと活用術」と題して講演を行いました。岩崎教授は、天気予報の不確実性を考慮し、その限界を知ることの重要性を指摘したうえで、天気予報を防災だけでなく、農林水産業や商業に役立つ情報、生活を豊かにする情報として、有効に活用してもらいたいと訴えました。



協定書に署名する平川所長(左)と齋藤町長



記念撮影



協定書締結式



講演する岩崎俊樹教授

文責：池田菜穂（情報管理・社会連携部門）
鈴木通江（情報管理・社会連携部門 広報担当）